

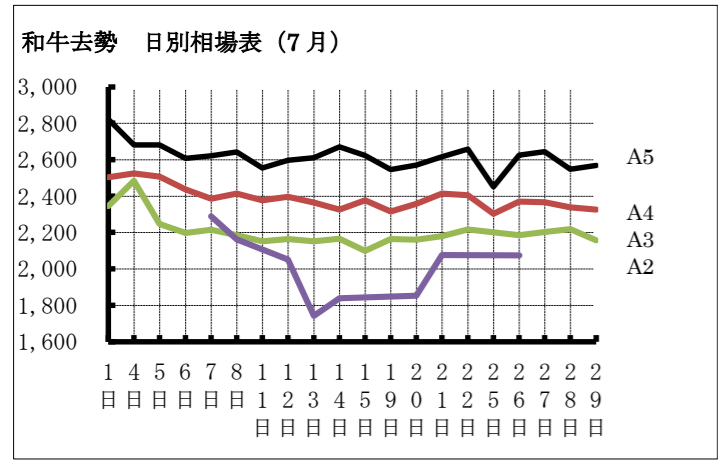
月刊しばうら

2022年8月号

牛肉営業部

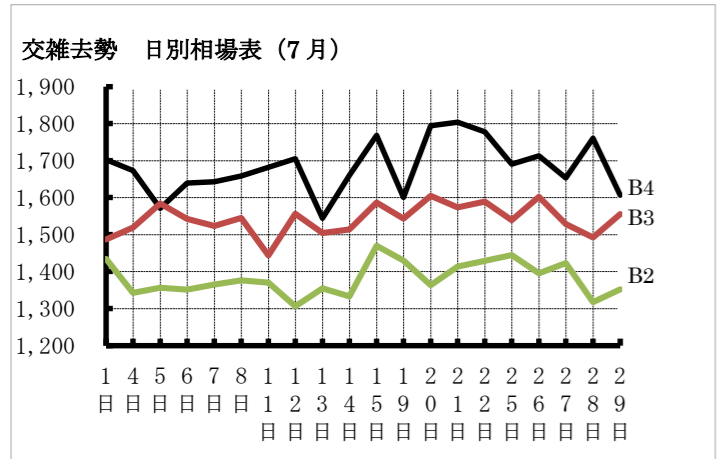
<7月の相場動向>

新型コロナウイルスの新規感染者数は、オミクロン変異株の伝播により爆発的に増加しており、現時点で政府、自治体による行動制限措置は執られていないものの、外食需要は低迷している。また、ロシアによるウクライナ侵攻、円安が長期化し、食品、原油価格高騰による生活費の上昇が消費意欲の減退に拍車をかけ、牛肉需要は引き続き厳しい状況にある。今年は何れも例年同月に見られる旧盆に向けた盛り上がりが見られなかった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,638円	-46円 98.3%	7円 100.3%
A4	2,391円	22円 100.9%	-6円 99.7%
A3	2,187円	67円 103.2%	3円 100.1%
A2	2,009円	214円 111.9%	72円 103.7%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,699円	-113円 93.8%	45円 102.7%
B3	1,546円	-44円 97.2%	36円 102.4%
B2	1,374円	-23円 98.4%	-3円 99.8%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし	-	-
B2	1,037円	-38円 96.5%	-31円 97.1%

<7・8月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、6月の輸入量は前年同月比10.4%増の5万7,698tで、うちチルドは4.2%増の2万2,833t、フローズンは前年同月比22.7%増の3万4,865tとなった。フローズンの大幅増の要因は、中国と韓国の買い付け量が前年より少なく、日本向けが増加したことによる。農畜産業振興機構によると7月は2.5%増の5万3,300t、8月は2.2%減の5万2,600tで予測している。

輸入牛肉通関量	6月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,112	8,814 80.7%
	米国	12,553	12,277 102.2%
	その他	3,168	2,741 115.6%
	合計	22,833	23,832 95.8%
フローズン	豪州	13,477	12,382 108.8%
	米国	10,526	7,686 137.0%
	その他	10,862	8,344 130.2%
	合計	34,865	28,412 122.7%

出典：食肉速報

単位：t

<8月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による8月の出荷予測頭数は、全体で前年比106.0%の8万6,800頭で、品種別にみると和牛は4.2%増の3万7,100頭、交雑種は13.3%増の2万100頭、乳用種は3.5%増の2万8,000頭と予測している。

東京食肉市場の8月のと畜頭数は6,700頭を予定しています。

<8月の牛枝肉相場見通し>

新型コロナウイルスの新規感染者数は7月に入り爆発的に増加しており、再び行動制限措置が執られるか注視していく必要がある。長引くロシアによるウクライナ侵攻や円安などの影響を受け、食品、原油価格等が相次いで高騰し、国内の消費マインドは冷めた状況が続くと考えられるため、牛肉需要を取り巻く環境は厳しい状況が継続する見込みである。

和牛については、冷凍保管事業や輸出需要等により下支えされた価格展開が継続された。しかし、6月の輸出実績が前年度割れをし、また冷凍保管事業の終了が近づきつつあり、先行きが不透明である。新型コロナウイルス新規感染者数の最大人数が日々更新される現状において、盆需要の盛り上がりが見込めない上、盆以降はさらに状況が悪化する可能性がある。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,600~2,800	B4	1,650~1,850
A4	2,450~2,550	B3	1,450~1,600
A3	2,250~2,350	B2	1,300~1,400
A2	2,050~2,150		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,050~1,100		

豚肉営業部

6月の全国と畜頭数は、前年同月比0.6%減の133万9,049頭。また、6月の豚肉通関数量は8万9,380t(前年同月比18.7%増)と前年を上回り、前月比も15.4%の増加となった。内訳はチルドが3万5,274t(1.0%減)と減少した一方、フローズンは5万4,107t(36.3%増)と大幅に増加した。

2021-2022年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
6	73,971	75,228	25,290	162,439	74,393	72,412
7	71,419	74,607	23,926	160,643	72,678	76,403
8	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
9	75,182	74,211	21,928	165,491	76,016	74,293
10	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
11	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
12	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
1	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
2	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
3	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
4	76,226	108,81	22,232	169,980	77,840	94,930
5	72,433	77,418	22,442	176,959	72,091	70,439
6	73,206	89,288	21,153	192,277	74,366	73,970
比	99%	119%	84%	118%	100%	102%

出典：農畜産業振興機構

比：最終月の前年同期比

単位：t

6月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	16,926	90.3	デンマーク	7,414	138.8
カナダ	15,797	103.9	スペイン	19,191	214.7
メキシコ	2,501	149.5	メキシコ	8,710	99.6
			アメリカ	4,665	100.3
			カナダ	2,814	94.5
合計	35,274	99.0%		54,107	136.3%

単位：t

<7月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	57,200	715	687	817
4日	66,100	714	688	563
5日	65,100	735	729	851
6日	41,100	748	725	539
7日	61,600	761	746	538
8日	58,100	743	731	741
平均	58,200/日			675/日

関東地方は記録的に早い梅雨明けとなり、猛暑が続く中、出荷頭数は増体低下の影響を受け始め低調に推移した。輸入物の供給が不安定なことや相場高、為替の影響が強まることで国産豚肉の引き合いは更に強まり相場は上昇傾向となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	63,100	766	753	567
12日	61,600	773	763	753
13日	62,100	786	776	640
14日	60,400	779	765	597
15日	56,700	759	746	876
19日	71,700	735	704	572
20日	65,300	658	622	1,036
平均	62,986/日			720/日

連休前の行楽需要に向けた荷動きが期待されたが、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増し、都内では1日あたりの感染者数が1万人を超えたことで、全国旅行支援が実施延期となり、外食産業からの引き合いは弱まった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	62,900	579	547	859
22日	60,000	539	521	1,021
25日	63,100	543	520	637
26日	64,000	536	527	734
27日	60,200	553	540	653
28日	64,600	554	540	583
29日	61,600	563	553	898
平均	62,343/日			769/日

連休明けから急落した相場は上物500円台で推移した。末端消費については、夏休み期間に入り、学校給食向けの荷動きが止まったことから、スソ物の荷動きが鈍化した。

<8月の豚枝肉相場見通し>

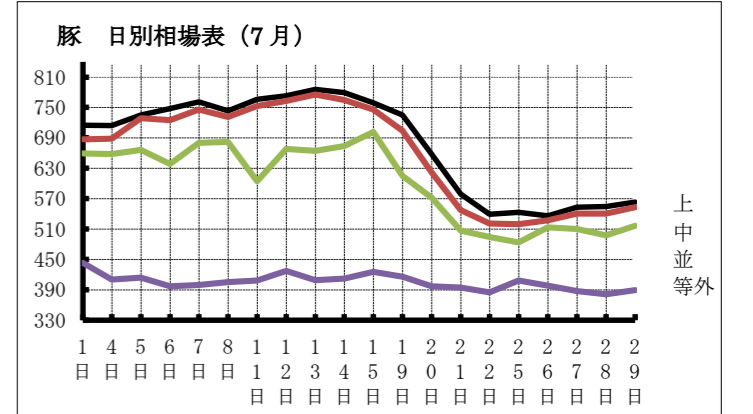
農林水産省による8月の肉豚出荷予測では、129万8,000頭(前年比98%)と予測している。当市場の8月集荷予定せり頭数は1万5,000頭、1日あたり約750頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると8月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万9,400t(同101.6%)、内訳は冷蔵輸入量が3万2,900t(同96.7%)、冷凍輸入量は4万6,500t(同105.4%)と予測。

冷蔵品輸入量は、北米における国内需要の高まりに伴う現地価格の高騰、為替相場の変動等から前年同月をやや下回ると予測する。同じく3ヵ月平均も、前年同期をやや下回ると予測する。冷凍品輸入量は、北米産を中心に、為替相場の変動等の影響を大きく受けた一方、スペイン産の買い付け量が多かったことから、前年同月をやや上回ると予測する。また3ヵ月平均は、前年同期を大幅に上回ると予測する。

例年8月は旧盆向けの手当により、引き合いが強くなる時期であるが、新型コロナウイルスの感染拡大が第7波に突入し、回復しつつあった外食、行楽需要に影を落とし、行動制限措置の予測を含め、末端消費に与える影響は不透明である。また、夏休み期間に入り、学校給食向けの荷動きが止まったことから、過度な盛り上がりは期待できない。供給面については猛暑の影響から、出荷頭数の減少や成育不良、上物率低下が懸念される。また、豚熱や一部地域における疾病の影響により、一層出荷頭数が落ち込む可能性があり、盆以降、出荷動向次第で相場が大きく変動することが予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は650円前後、中物平均価格620円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
 TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127